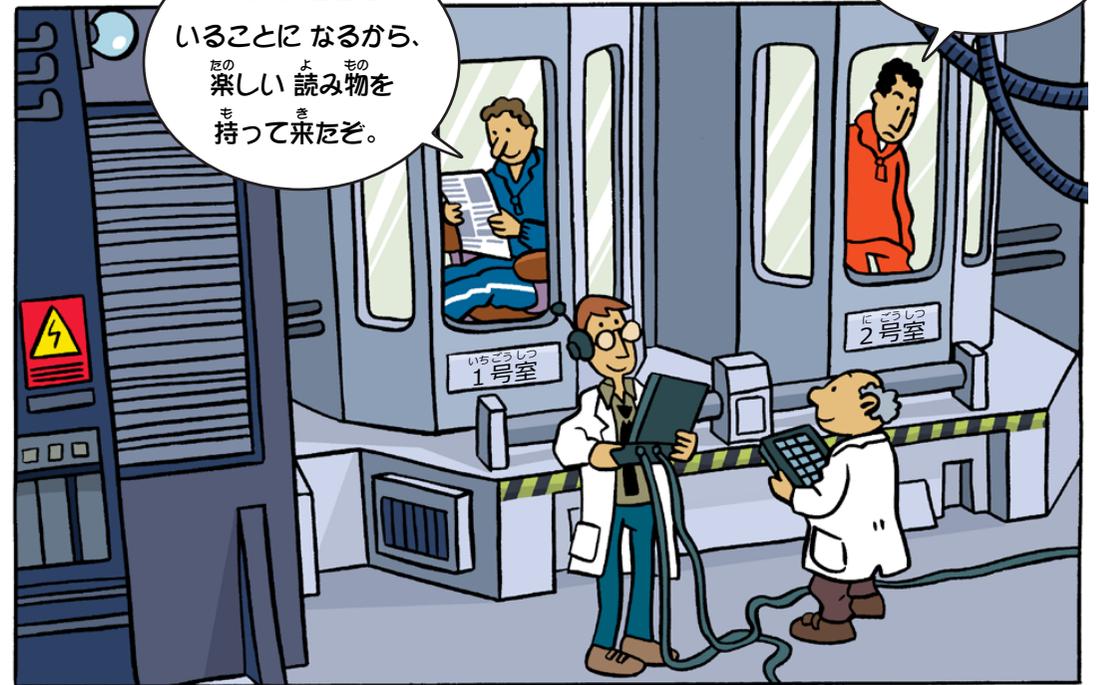
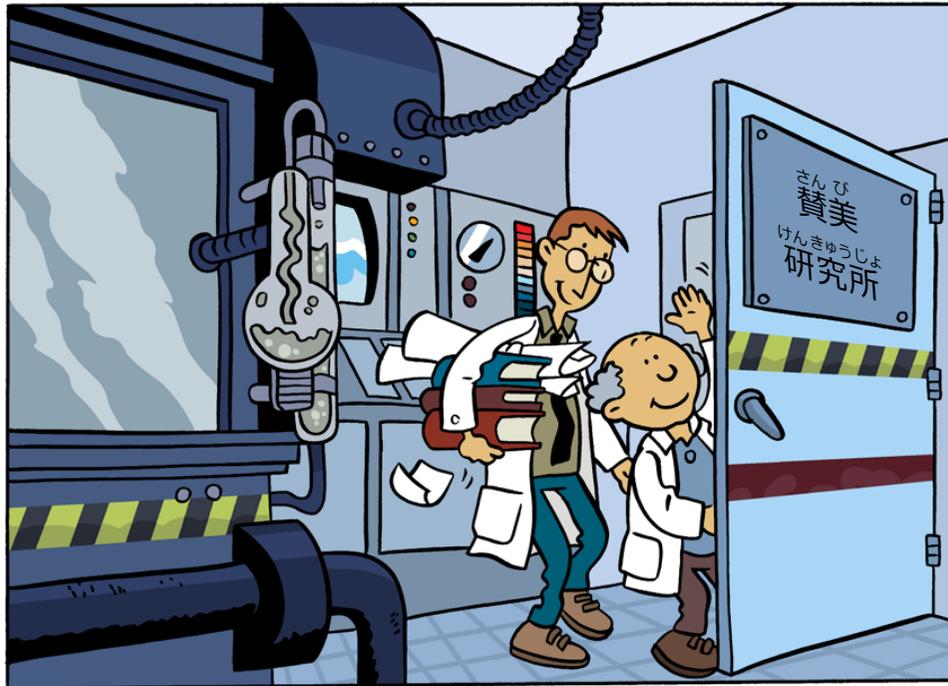


# さんび かんしゃ やく た 賛美と感謝は役に立つ

かみさま かんしゃ さんび かんさま ひ よ しへん か  
神様に感謝して賛美すると、それはあなたを神様に引き寄せてくれます。詩篇22:3にはこう書かれています。

「イスラエルのさんびの上に座しておられるあなたは聖なるおかたです。」



じょうきょう さんび かんしゃ き も しあわ  
どんな状況でも、賛美と感謝の気持ちがあれば、もっと幸せになれるでしょう。

そして、からだ ちょうし ちようし よ  
そして、体の調子だって、もっと良くなることがあります。

その反対も、<sup>ほんたい</sup>真実です。<sup>さんび</sup>賛美と<sup>かんしゃ</sup>感謝の反対は、<sup>なん</sup>何でしょうか？<sup>かんしゃし</sup>感謝知らずになって、<sup>ふへいふまん</sup>不平不満を言うことです。

<sup>い</sup>色々な<sup>できごと</sup>出来事があると、<sup>ときどき</sup>時々、そのせいで、<sup>かな</sup>悲しみや<sup>ふまん</sup>不満や、<sup>た</sup>他の人と<sup>ひと</sup>比べたり<sup>くら</sup>することがあります。<sup>ものごと</sup>物事が<sup>おも</sup>思い通りに<sup>い</sup>いかないと、<sup>まいにち</sup>毎日<sup>かみさま</sup>神様から<sup>おほ</sup>いただいている<sup>おほ</sup>多くの<sup>しゅくぶく</sup>祝福を<sup>わす</sup>忘れがちになります。<sup>よ</sup>良いことを<sup>さま</sup>イエス様に<sup>かんしゃ</sup>感謝するのを<sup>わす</sup>忘れてしまったりするのです。

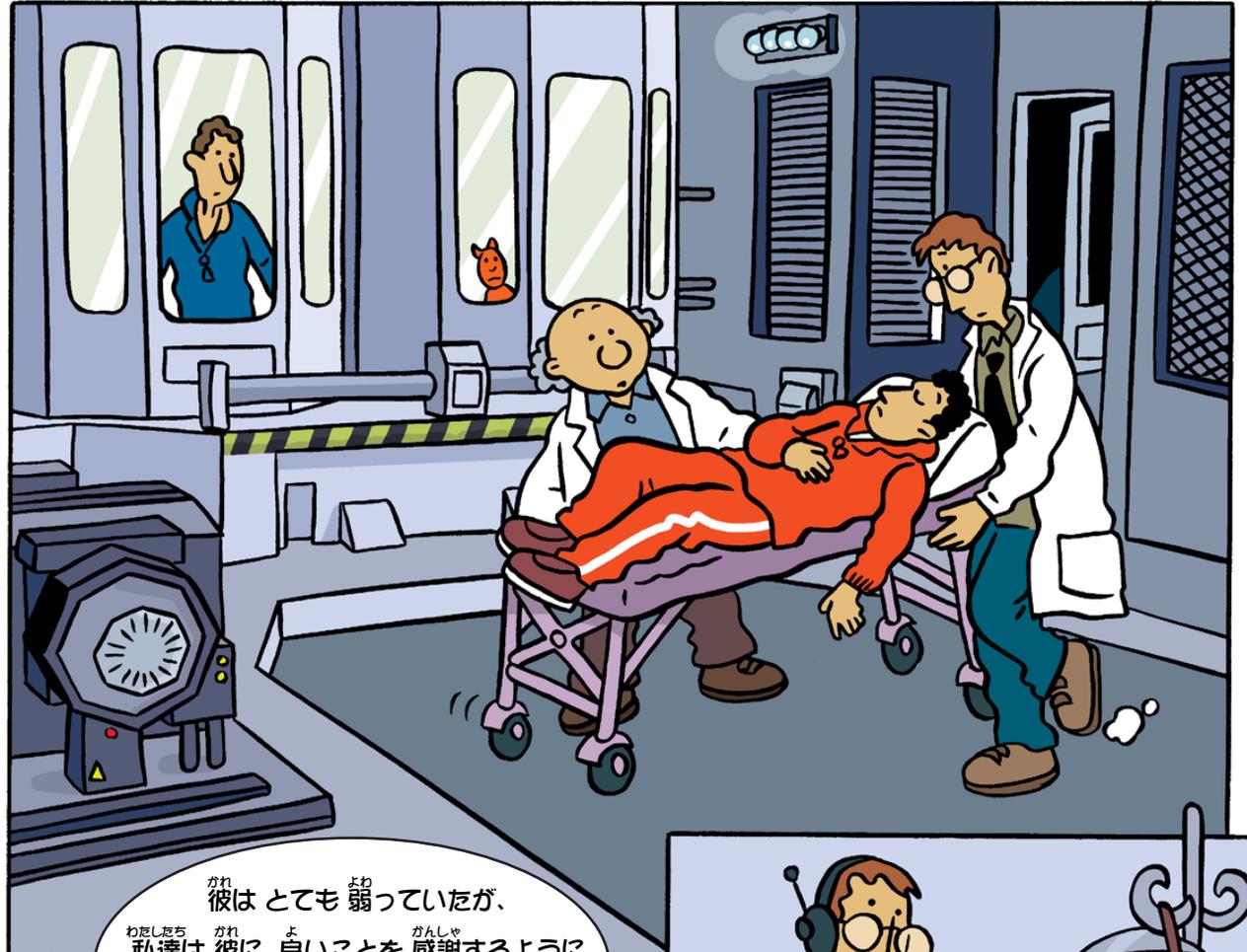
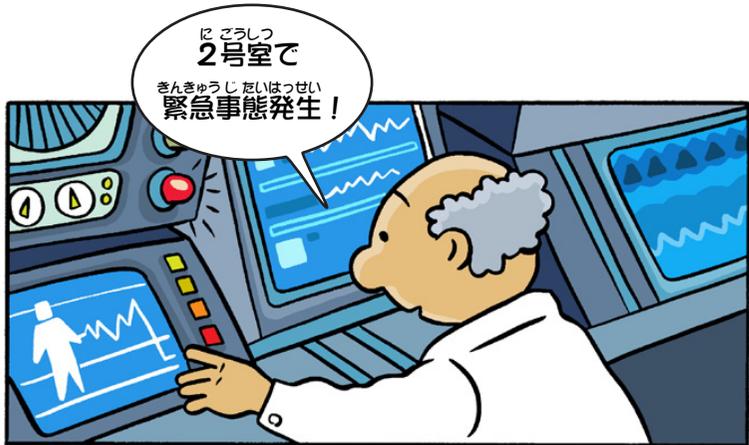


「すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたに求めておられることである。」（口語訳聖書、テサロニケ人への第一の手紙 5:18）



けれども、<sup>かみさま</sup>神様の<sup>いだい</sup>偉大さと<sup>あい</sup>その愛を<sup>おも</sup>思い出し、<sup>だ</sup>感謝すれば、<sup>かんしゃ</sup>がっかりして<sup>お</sup>落ち込んでいた<sup>こ</sup>気持ちは、<sup>きもち</sup>あつという間に<sup>ま</sup>消え去るでしょう！

マイナス思考によって、体が弱くなることも  
 あります。おそれや心配で体が緊張して、  
 やがてストレスで参ってしまうのです。  
 体がつかれて弱り切ってしまうと、病気にも  
 かかりやすくなります。ですから、精神的にも  
 身体的にも健康でいるために、賛美と  
 感謝に気持ちを集中し、マイナス思考を  
 追い出しましょう。



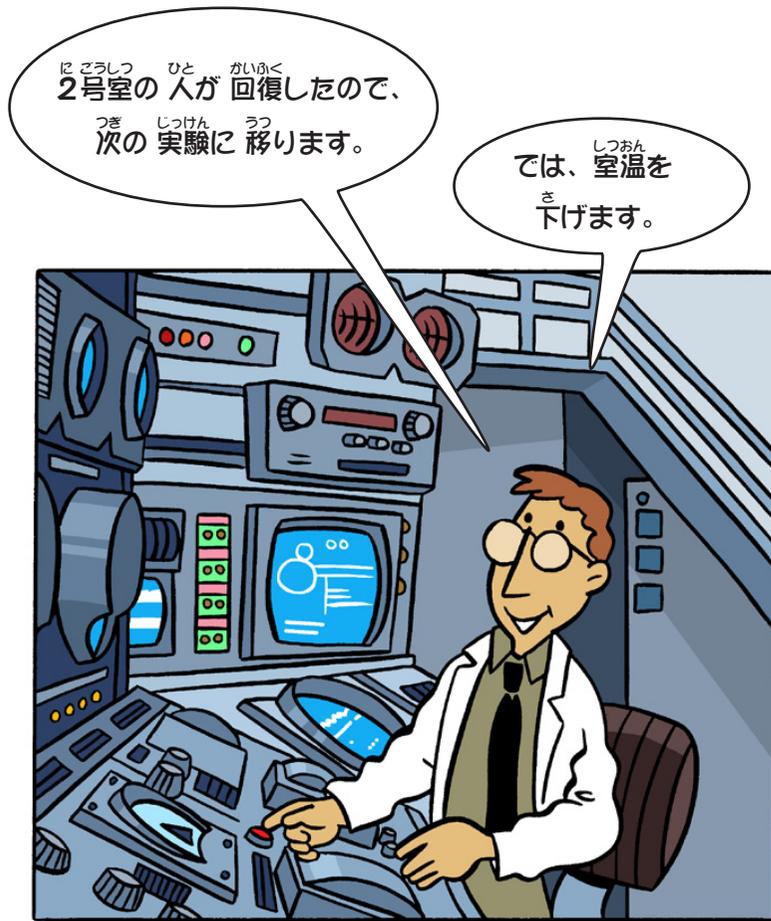
彼はとても弱っていたが、  
 私達は彼に、良いことを感謝するように  
 勧めています。じきに、気分が  
 良くなりますよ。



「何事も思いわずらってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈りと願いとを  
 ささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。そうすれば、  
 人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、  
 キリスト・イエスにあって守るであろう。」 (口語訳聖書、ピリピ人への手紙 4:6-7)

何かひどいと思うことがあった時に、不平不満を言ってしまうたり、悲しんだり腹を立てても当然だと思ってしまうなら、それは、居心地のいい素敵な家を、ありとあらゆる落胆の気持ちにのさばらせてしまうようなものです。

「すべてのことを、つぶやかず疑わないでください。それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲がった邪悪な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。」（口語訳聖書、ピリピ人への手紙 2:14-15）



「わたしは常に主をほめまつる。そのさんびはわたしの口に絶えない。」（口語訳聖書、詩篇 34:1）

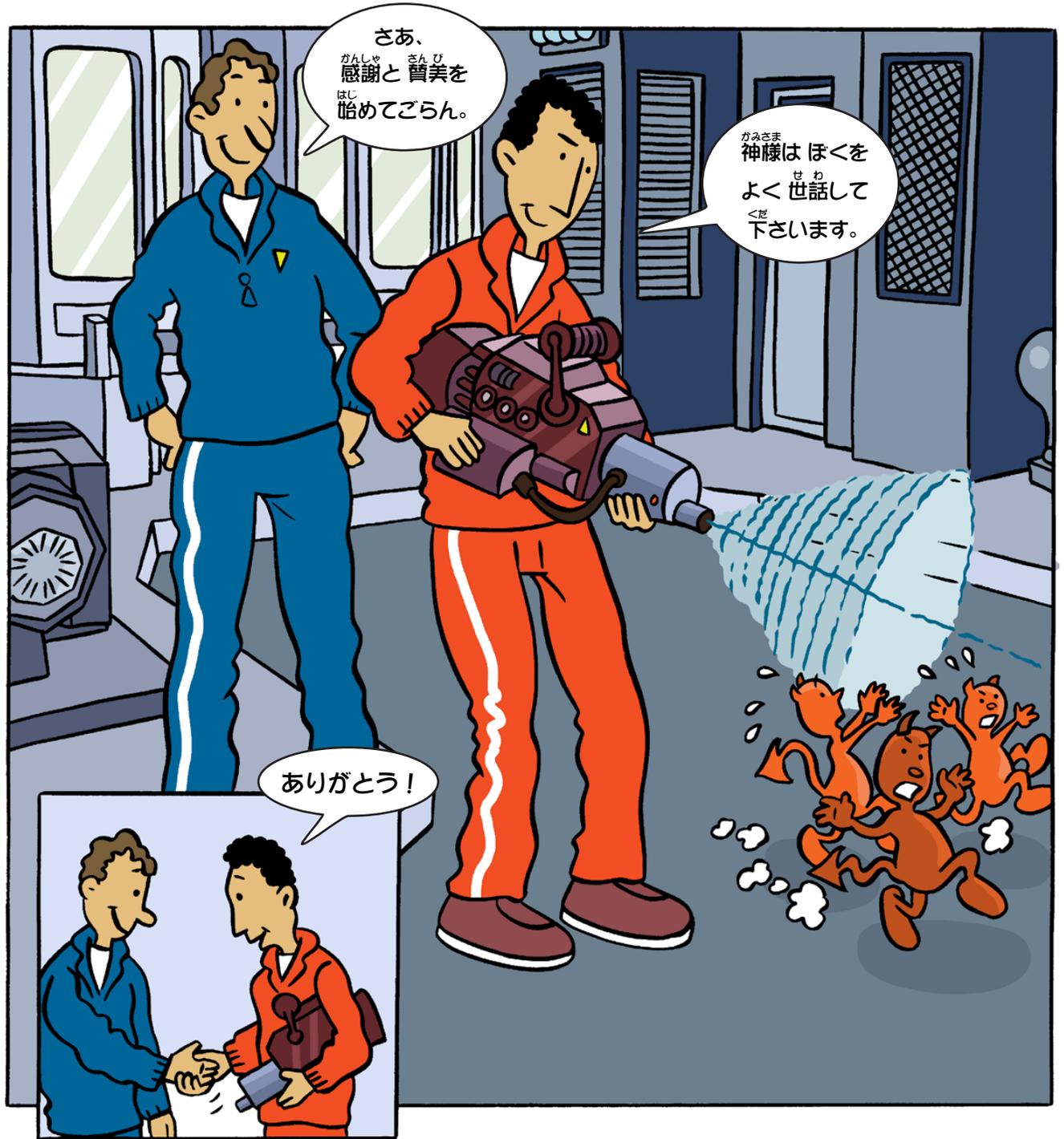
「主のいつくしみと、くすしきみわざとの  
 ために、主に感謝するように。」  
 (口語訳聖書、詩篇 107:8参照)



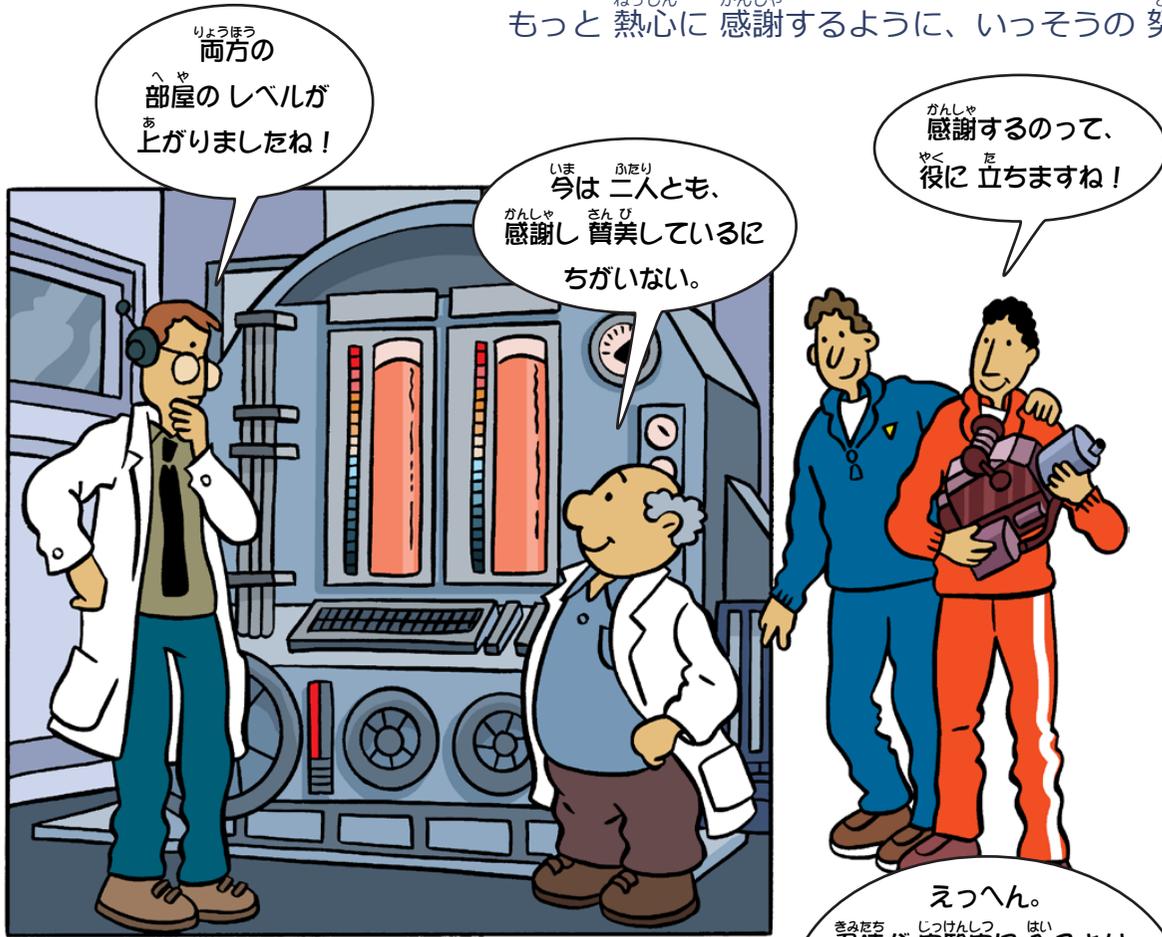
「さんび  
 おうとう  
 応答システムがあ！」

「つか  
 使うのが  
 ま  
 待ち切れないなあ！」

「精神的にも 身体的にも 丈夫でいたいなら、  
 すぐに 賛美と感謝を使う 習慣を  
 つけることが 大切です。」



すこ 少しでも ひていてき おも とき  
 少しでも 否定的な 思いに なられたら、その時こそ、  
 もっと ねっしん かんしゃ かんしゃ どりよく  
 もっと 熱心に 感謝するように、いっそうの 努力を するべきなのです。



「すべて ほんじつ すべて たつと すべて  
 「すべて 真実なこと、すべて 尊ぶべきこと、すべて  
 ただ 正しいこと、すべて じゆんしん すべて あい  
 正しいこと、すべて 純真なこと、すべて 愛すべきこと、  
 すべて ほまれあること、また 徳といわれるもの、称賛に  
 あたい 値するものがあれば、それらのものを 心にとめなさい。」  
 (口語訳聖書、ピリピ人への手紙 4:8)



しゆ かんしゃ さんび わす  
 主に 感謝し、賛美するのを 忘れないように、  
 イエス様に 助けを 求めましょう！  
 求めれば、助けて下さいます。

えっへん。  
 きみたち じっけんしつ はい  
 君達が 実験室に入るより、  
 ががくしゃたち はい  
 科学者達が 入ったほうが  
 よかったとは  
 おも 思わないかい？

